

岐阜県の両生類:その生態と水族館の保全への取り組み

田上 正隆

(世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ)

岐阜県には現在、カエル類（無尾類）が15種（外来種をのぞく）、サンショウウオ類（有尾類）が10種生息している。カエル類は本州に生息するほとんどの種を見ることができ、サンショウウオ類では国の特別天然記念物として有名なオオサンショウウオ以外にも、成体でも全長10~20cmほどの小型サンショウウオが8種も生息している。このうちの2種は一昨年に新たに生息が確認されたヒガシヒダサンショウウオ（以下ヒガシヒダ）や今年新種記載されたホムラハコネサンショウウオ（以下ホムラハコネ）が含まれている。おおむね岐阜県内に広く分布しているカエル類と違い、サンショウウオ類ではヒガシヒダやホムラハコネ、ヤマトサンショウウオ（以下ヤマト）など、岐阜県内ではごく限られた地域でしか見られない種がいる。

両生類の多くは、卵や幼生（オタマジャクシ）の時期は水中で生活し、成長し変態すると陸上に生息場所をうつす。つまり、両生類を守るためには水域と陸域、どちらの場所も守っていかなければならない。さらに水域と陸域をつなぐ連続性をもった多様な環境（エコトーン）も必要になる。この3つのうち1つでも欠けてしまうと両生類は暮らしていくことができない。こういった場所は年々減少していることから、多くの両生類が生息数を減らしており、岐阜県のレッドリストではサンショウウオの仲間で6種、カエルの仲間で3種が絶滅の恐れがある種としてリストアップされている。また、リストに掲載されていない種においても、一部を除いて生息数は減少傾向にあると考えられる。

このように数が減りつつある岐阜県の両生類を守っていくために、水族館ができることは何があるだろうか？ 演者が勤める水族館「世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ（以下、水族館）」では、岐阜県内に生息する小型サンショウウオの生息域内・域外保全活動に取り組んでいる。ハクバサンショウウオの生息域内保全活動では、土砂や落ち葉で産卵場所となる水たまりが埋まってしまうため、毎年繁殖期直前に整備を行っている。また、冬の間たままった落ち葉などが道路上に流れ出した雪解け水をせき止めてしまうことで、道路上で産卵してしまうため、道路上の落ち葉などを取り除く作業も重要となる。岐阜市産ヤマトの保全活動では、繁殖場所が駐車場の周囲にあるU字溝であり、環境が非常に不安定なため、卵や幼生を保護し変態直前に放流する活動を行っている。また、水族館敷地内に生息域外保全を行う場所を造成し、人の手をほとんどかけずに自然な状態で、ある程度の個体数を維持しており、もしもの場合に備えている。これらの保全活動は水族館単独で行っているわけではなく、大垣北高校の高木雅紀先生や岐阜大学の向井貴彦教授、楠田哲士准教授、岐阜高校や大垣北高校の生徒や先生たち、岐阜市役所などさまざまな人や機関と協働して活動を行っている。

また、水族館では岐阜県に生息する両生類はウシガエルをのぞいて、すべての種を飼育しており、そのほとんどを常設展示している。生息地に足を運んでもなかなか見ることができない種も多いことから、来館者の方々に実物を見てもらい、両生類について知っていただくこと、つまり教育普及活動も重要な役割である。しかし展示のためとはいえ、数が減っている希少種を野生から捕獲し続けることはできるだけ避けるべきである。そのために飼育下繁殖技術を向上させるこ

とが、とても重要な仕事となっている。小型サンショウウオの中でも、特に流水産卵性種の飼育下繁殖は難しいとされているが、野外での生息環境を飼育下で再現することで複数の種で飼育下繁殖に成功している。特にマホロバサンショウウオ、ヒダサンショウウオについては飼育下2世代目も誕生している。展示個体の確保だけを目的とせず、飼育下繁殖によって得られたデータを生態の理解や保全にもつなげられるように、今後も努力していきたいと考えている。

岐阜県の希少な両生類たちがこれからも暮らしていける環境を残すためには、多くの方々の協力が必要である。今後も両生類に興味を持つ仲間を一人でも多く増やし、さらには保全活動に協力してもらえらる仕組みづくりも必要だと考えている。

講演者プロフィール

大阪府大阪市出身。2001年、東海大学海洋学部水産学科卒業。現在、世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ展示飼育部展示飼育チーム魚類班班長。両生類、特に流水産卵性の小型サンショウウオの飼育下繁殖に力を入れている。主著に「岐阜県の動物」（編著、両生類担当）。

岐阜県の動物

哺乳類・爬虫類・両生類・十脚類

向井貴彦・森部絢嗣・楠田哲士・田上正隆 編著

体裁 A5判 268ページ 発行 岐阜新聞社
定価 4,500円(税込み)

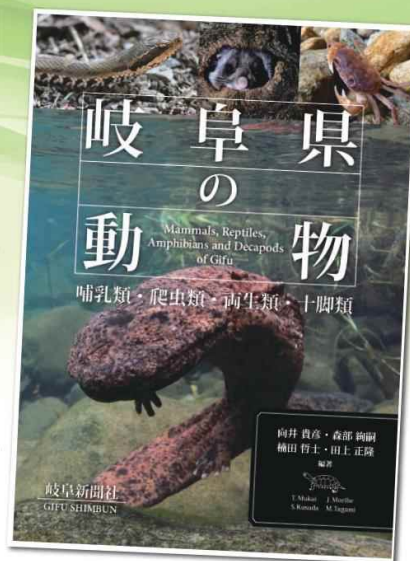
標高0mから3000mまで、広大な森林と多数の河川に恵まれた岐阜県の野生哺乳類、爬虫類、両生類、十脚類の合計123種を全て掲載した地方図鑑の決定版!

岐阜県は日本列島の中央部に位置しており、日本海側の多雪地帯や高山帯、温暖な太平洋側の濃尾平野といった多様な環境を有している。そして東日本と西日本の動物相が交わる地域でもある。本書は、そうした岐阜県に分布する哺乳類・爬虫類・両生類・十脚類を網羅した。全て県内で撮影された写真(もしくは県内産標本の写真)で紹介し、地域変異や個体変異なども多数の写真を掲載。確実な記録がある外来種も全て掲載している。岐阜県の自然の魅力や現状を知ってもらうために気鋭の研究者たちが力を結集させたこだわりの1冊。

購入申し込み・お問い合わせ先

T E L 058-264-1620 (月~金(祝日年末年始除く)9時~17時)
F A X 058-264-8301

岐阜新聞情報センター出版室 E-mail publish@gifu-np.co.jp



世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ、長良川うかいミュージアム、
みのかも文化の森、岐阜大学生協書籍部にて販売中です。